

令和4年度第2回(第230回)隱岐の島町教育委員会会議録

1. 開催日時 令和4年5月25日午前9時30分

2. 開催場所 隠岐の島町役場 3階 303会議室

3. 出席委員 教育長 野津 浩一
教育委員 野津 幸恵
教育委員 山下 豊範
教育委員 常角 敏
教育委員 谷田 一子

4. 欠席委員 なし

5. その他の出席者 総務学校教育課長 吉田 隆
社会教育課長 中村 恒一
中央公民館長 金坂 賢一
総務学校教育課長補佐 藤田 志生

6. 開会宣言 事務局職員が出席者及び資料の確認をした後、教育長は開会を宣言した。

7. 教育長報告要旨 教育長は前回の教育委員会の会議から本日までの主な事項を報告した。

-報告要旨-

- 5月12日、松阪市友好の会の対応について、駅鈴を通じて三重県松阪市、島根県浜田市と交流を深めている。本町としては、民間の方による歴史文化推進協議会の取組に対し、支援をしており、この度は松阪市から15人の方の来島があった。今後も協議会に対し、支援していきたい。
- ござんせCUP実行委員会について、コロナ禍により3年間中止していたが、本年は8月19日からの3日間で、出場チームを本町と豊中市、岡山県の8チームに限定し、規模縮小して行うことになった。
- 5月16日、3年ぶりに開催された全国町村教育長定期総会並びに研究大会に出席した。非常に充実した大会だった。

8. 議事

【報告第1号】 隠岐の島町学校給食センター運営委員会委員の委嘱について

- 報告第1号の「隠岐の島町学校給食センター運営委員会委員の委嘱について」、事務局職員の説明の後、審議を求めた。

-説明要旨-

(総務学校教育課長) 隠岐の島町学校給食センター運営委員会委員の委嘱については、前回の

会議で説明したものであるが、PTA会長が決定し、5月1日から委嘱したので、事務委任規則に基づき報告する。

- 質疑応答 -

- なし

- 審議結果 -

- 審議の後、異議なく全員の挙手により承認した。

【報告第2号】 隠岐の島町屋内温水プールチラー更新工事の計画について

- 報告第2号の「隠岐の島町屋内温水プールチラー更新工事の計画について」、事務局職員の説明の後、審議を求めた。

- 説明要旨 -

(社会教育課長) 隠岐の島町屋内温水プールチラー更新工事の計画については、本来であれば前回の会議で説明すべきところであったが、日程の都合上、今回の説明となった。概要について、議案資料に基づき説明を行った。昨今の世界情勢による原油や資材等の高騰により、工事予算額が不足することが判明したため、既定予算で発注可能な工事を先行して発注することとした。不足する工事費については、9月議会定例会において、増額補正予算を計上し、議決後に追加発注する。

- 質疑応答 -

- なし

- 審議結果 -

- 審議の後、異議なく全員の挙手により承認した。

【報告第3号】 隠岐の島町立五箇生涯学習センター空調設備改修工事の計画について

- 報告第3号の「隠岐の島町立五箇生涯学習センター空調設備改修工事の計画について」、事務局職員の説明の後、審議を求めた。

- 説明要旨 -

(中央公民館長) 隠岐の島町立五箇生涯学習センター空調設備改修工事の計画については、本来であれば前回の会議で説明すべきところであったが、日程の都合上、今回の説明となった。概要について、議案資料に基づき説明を行った。

- 質疑応答 -

- なし

- 審議結果 -

- 審議の後、異議なく全員の挙手により承認した。

【議第1号】 令和4年度教育行政の方針について

- 議第1号の「令和4年度教育行政の方針について」、事務局職員の説明の後、審議を求めた。

- 説明要旨 -

別冊「令和4年度教育の方針と事業(案)」について、担当課長よりそれぞれ担当する分野の教育行政の方針の変更点等を中心に説明をおこなった。

- 質疑応答 -

(常角教育委員) “隠岐びと”の育成を目指すのであれば、“隠岐びと”の心とは何かをもっと具体的にすべきではないか。隠岐びとの心で、一番大事なことは共生社会の実現と考えており、すべての人々が共生する社会を実現することである。したがって、方針の肝心な部分に「人権を基盤にした」ことを

明記すべきではないか。当然のことと思われるかもしれないが、「人権を基盤にした」教育が大事であることを多くの人が分かっているかは疑問である。具体的には1ページ4行目「人権を基盤にした明るい社会を築きあげる」、5ページ14行目「人権を基盤に置き、児童一人ひとりの」、9ページ9行目「人権尊重を基盤に置き、住民自らが主体的に」に修正するなどし、本町は人権を基盤に置いた教育を推進することを強く主張すべきと考える。

(野津教育長) “隠岐びと”については教育大綱策定時に教育委員の皆様に議論いただいた。今の常角委員の意見について、各課長の意見を伺いたい。

(総務学校教育課長) ご指摘の「人権を基盤に置く」ことは、大変重要であると考えるので、5ページ13行目「人権を基盤に置き、児童一人ひとりの」に修正したい。

(社会教育課長) 前段で人権問題が起こっていることを記載しながら、後段で人権に触れているところがないので、意見を参考にしながら、修正したい。

(常角教育委員) 関連の意見として、11ページの公民館事業に(5)人権教育の推進があるが、他の事業と同列にあるので、領域外と勘違いされてしまうことが危惧される。公民館事業で本町の現代的課題を学習するという方針をしっかりと明記すべきであり、その現代的課題の基となるのは「人権」「共生社会」であり、「環境」「少子高齢化」「限界集落」「若者定住」、さらに「平和」「領土問題」であると考える。

(谷田教育委員) 人権を大事にすることは、非常に大切で、方針等に明記していくことも必要と考える。しかしながら、公民館事業については、「共生社会の実現に向けて人権」をベースに置くことは同感するが、それとは別に「人権教育の推進」という項目を記しておくことも必要と考えるので、表記の方法について検討いただきたい。

(野津教育長) 本来は、人権教育は一部の教育ということでなく、全体的なものという常角委員のご指摘については、大いに納得するが、公民館事業のメニューとして「人権教育」を記載することも必要と考えている。

(常角教育委員) 授業力向上研修会が記載されており、必要とは考えるが、私としては「学級づくり研修会」も必要であると考える。人権を基盤とした学級づくりをしていかないと、本当の意味での学力の保障は出来ないのではないか。「教え合い学び合う協同的な学び」を実現するためには、学級の子どもたちが社会の一員として、どのように人と向き合っていくかを学級づくりをしていかないといけないと思い、授業力向上の基となる学級づくりに力を注ぐべきと考える。

(野津教育長) 昨年、都万小学校では「自ら考える授業」を実践したが、ここでは特別支援の児童も一緒に時間をかけて行った。このことを、いかに他の学校に広げていくかということが大事だと思う。

(野津教育委員) お互いが認め合う環境づくりがないと学力が向上しないということは共感できる。ただし、現実問題としてタブレット導入など授業の形態が変わりつつあり、先生たちも不安なことが多いと思う。授業力向上研修会を追求していけば、最終的には必ず人権に行き着くと思う。授業力向上研修会が昨年は年3回だったのに対し、今年は年1回となっている。本町では小規模校が多く、先生方同志の繋がりが少ないため、先生方が繋がる研修会を作っていくことが必要ではないかと考える。

(総務学校教育課長) 授業力向上研修会は、年1回と記載しているが、現段階で確定しているものを記載しており、必要性を充分に認識し、充実させたいと考えているので、記載を改めるよう再度検討したい。

(谷田教育委員) 各学校の広報誌を拝見すると、先生方の思いが記されており、離島でありながら充実した教育を提供することに努力されていると感じる。ただし、本土と比較すると、研修する機会が限

られ、先生方同志が顔を突き合わせて議論、学ぶ機会が少なく、日々児童生徒と接する先生方にとては苦しい状況ではないか。離島であれ、都市部であれ同じように豊かな教育を提供しようと思うと研修の機会が充実されることを望む。

(常角教育委員) 社会教育の振興のうち、社会教育実践者等の研修の内容について、現代的課題にどう取り組むかを意識した研修会を行うことで、社会教育の基盤を作ることができると考える。また、ふるさと教育に200万円の予算措置がされているが、その使途を教えてほしい。

(総務学校教育課長) バスで移動する費用の支出を予定している。なるべく現地に赴く機会を多くするため、増額している。

(常角教育委員) 竹島の関心度について、島根県より本町の関心度のほうが低い。20歳代は他の年代より高く、学習の成果と捉えている。毎年行っている中学生の竹島作文コンクールでは、隠岐郡7校のうち、3校は提出しておらず、もう少し積極的な取組にするべきではないかと考えている。

(山下教育委員) 町内各学校の保護者からは、学校での問題や、学校への不平不満ばかりを聞く。コロナの影響もあり、教員、保護者、児童生徒の関係性が悪い方向に進み、環境が悪化しているように感じる。学校は子供たちのためにあるものであり、環境改善を図るために学校と保護者の距離を縮め、繋がりを強化する施策を実践する必要性を感じる。PTA総会や親子活動など、教員と保護者の繋がる機会となる行事もコロナの影響により縮小や中止となり危惧される。

(野津教育長) かつては、教員と保護者の交流会などが行われ、良好な関係性の構築に一助となっていたように思う。参観日等もコロナのために中止するなど聞いているが、関係を良好とするために工夫を凝らして行事を開催するなど検討すべきと考えている。

(山下教育委員) コロナが収束すれば解決することかもしれないが、もう少し工夫していいってほしい。

(谷田教育委員) 保護者と学校の繋がりでは、対面で会話が成立すれば、上手いくことも、現状では出来にくく、こじれる場合が想像される。学校側も様々な問題に真摯に対応しているとは思うので、それをしっかりと保護者に伝える努力はしていく必要性を感じる。

(野津教育長) 学校側は行事等をなるべく開催しようと努力しているが、コロナに対して敏感な保護者の意見に配慮して中止するケースがある。子供たちにとって、今しか出来ない経験を奪うことなく、体験させるため、工夫を凝らして行事等を実施する意識になるよう働きかけていきたい。

(常角教育委員) 子供たちが明るい顔で過ごすためには学級づくりが大切となる。私が現役時代は、皆で楽しむことを心掛け、終礼後にゲームをするなどした。学級づくりのためには、「共に楽しむ」ことが重要ではないかと思っている。

(野津教育委員) 学校と保護者の良好な関係のためには、先生方がなるべく訪問して対面で会話するなどの努力が大切ではないか。電話で済ませられることも、顔を見てお互いの気持ちを話せば、分かりあえることが多い。

(野津教育長) 現状では学校側にも余裕がないことも感じられる。意見を参考にして学校側にも働きかけていきたい。

(常角教育委員) 国府尾城活用整備事業について、先般現地に登った折に旧道の8割が特定できた。今後は地形等を参考にすれば、遊歩道の整備に活用できると考えている。国府尾城の文化財指定については、先送りとなっているが、県又は将来的には国の指定を目指すべきで、観光振興に寄与するものと考えている。

(野津教育長) 今後、事業の参考にさせていただく。

(常角教育委員) 分館活動支援事業について、今年度から集落地域活性化事業と一本化したとの

説明だが、困っている分館はないか。

(中央公民館長) 数か所の分館で配分額が減額となった地区があるが、困ったとの声は聞こえてきていらない。実際は地域の活動であるので、ある程度の自己負担は仕方ないとも考えている。ただし、これまで分館長手当を設定していたが、削除したので、それに対する声はいくつか聞いている。

(常角教育委員) 私の地区では、引き続き分館長へ交通費等を補填するべきとの意見から、これまでの分館長手当の同額を予算化した。

(中央公民館長) 他の分館でも同様の取扱いをしていると聞いている。

(谷田教育委員) 高校魅力化事業の地域みらい留学について、活動が隠岐高校から発信され、話題になっている。わずか1年間ではあるが、ここにしかないものを求めてのチャレンジに支援が出来ればと思う一方で、ここにはないものを求めて町外の高校に進学しようとする中学生が多いと感じ、危惧している。町内の高校の魅力化について、学校をはじめ本町で再確認する必要性を感じる。先日、ある北海道の高校の魅力化の取組について、テレビで見た。この町では町外の高校への進学者が多く、学習機会が少ないことが原因と推察し、放課後にICT等を活用した特別学習など、学習機会拡充の取組に着手していた。町外の高校に進学すれば保護者の経済的負担も増え、高校生にとっても新たな環境に不安もあったが、町内の高校に進学し、自宅から通学でき、学習機会が増えたなかで自分の目指すべき進路に向かうことが出来ることに評価は高まっているとのことだった。本町としても島外に進学する生徒が多いことの原因を把握し、島外の生徒も呼び込みたいが、やはり町内の生徒にとっても魅力があり、行きたい学校であって欲しい。

(野津教育長) いろいろな要素があって町外の高校に進学していると思うが、これまでその理由を分析したことはなかったように思う。仰せのとおり、ここで出来ることを増やす發想や取組に着眼はしていかなかったように思い、貴重な意見と捉え、今後に結び付けたい。

(総務学校教育課長) 地域みらい留学について、広報誌等を通じて、取組や参加者の感想などを町民の皆様に周知していきたい。そのことにより、町民の方が隠岐高校の魅力を知る良い機会となるとも考えている。また、隠岐水産高校にあっては、資格取得等でいうと日本トップクラスの学校であり、そのことが、町内の中学校の教職員や生徒にあまり認識されていないようを感じる。学校や町で島内外にアピールする方法や手段を模索していきたい。

(山下教育委員) 高校魅力化について、先般、隠岐高校の校長等と話した際に寄宿舎の話題となった。隠岐高校では昨年度に寄宿舎の改修を行い、綺麗な状態に生まれ変わったところ、利用希望者が増えたと聞いており、非常に分かりやすく、町外の生徒にとっては施設の状態・充実度が重要な要因になると受け止めた。一方で、希望者が増えれば不足することとなり、断るようなこととなればもったいなく感じる。

(野津教育長) すでに不足が懸念される隠岐水産高校に本町が寄宿舎を建設することとしている。利用希望者の男女比の状況にも左右され、隠岐高校でも心配されているのは把握している。

- 審議結果 -

- 審議の後、議第1号について、指摘のあった箇所の修正は教育長に一任され、基本的には原案のとおり可決した。

9. そ の 他

【令和4年度第3回教育委員会の開催日時について】

- 令和4年度第3回、6月の教育委員会の会議については、事務局職員の提案に異議がなかつたため、6月27日月曜日、午後1時30分から隠岐の島町役場会議室で開催することとした。

【議事録の確認について】

- 令和4年度第1回教育委員会会議録について、委員全員により確認を行った。

10. 閉 会 宣 言 教育長は閉会を宣言した。

11. 閉 会 日 時 令和4年5月25日 午前11時15分

12. 会 議 錄 作 成 者 総務係 藤田志生

署名日 令和 4年 6 月 27 日

隠岐の島町教育委員会 教育長 黒津 浩一